

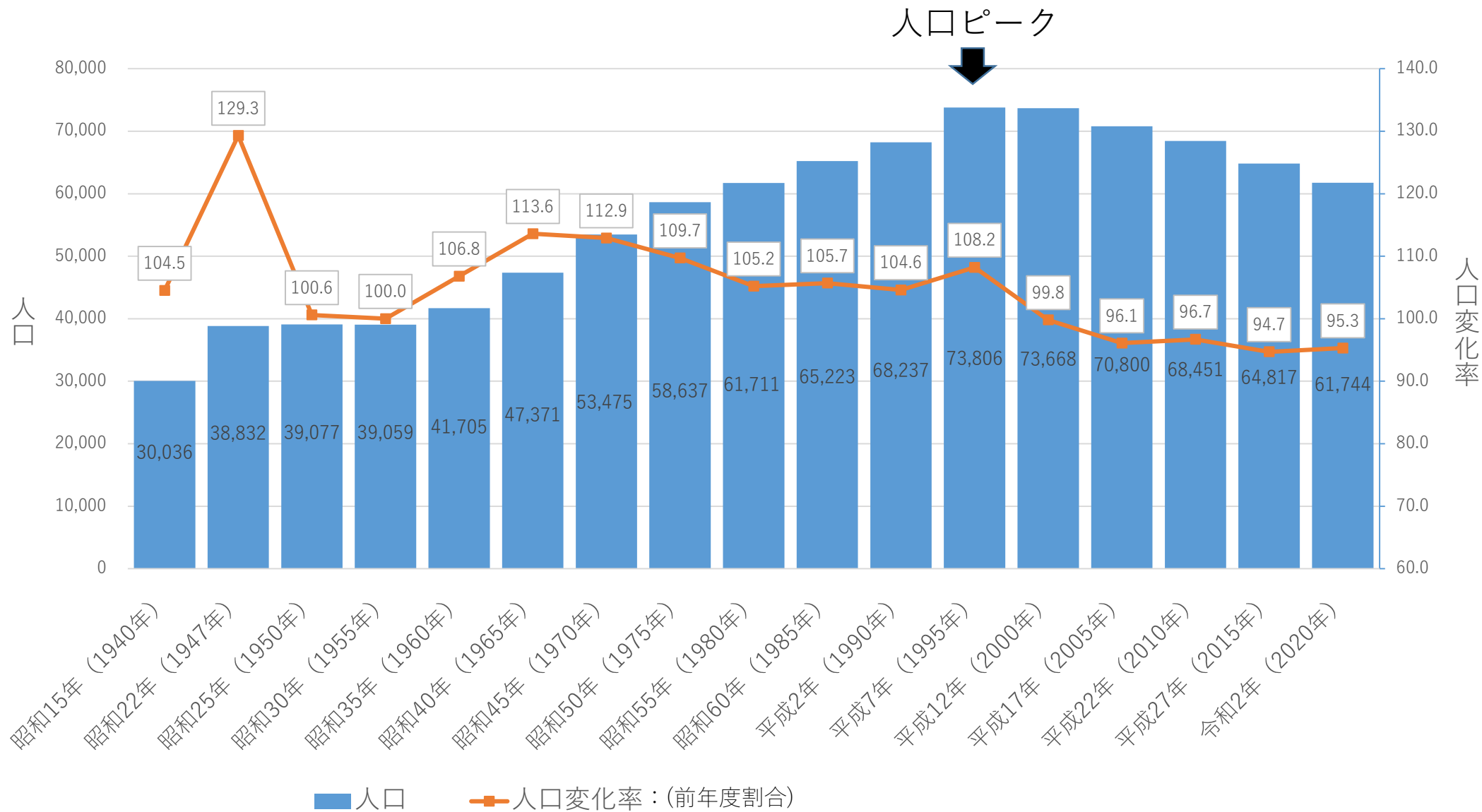
大和高田市の 人口動態について

令和5年 8 月

令和5年度 第1回 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議
令和5年 8 月30日（水）14：00～

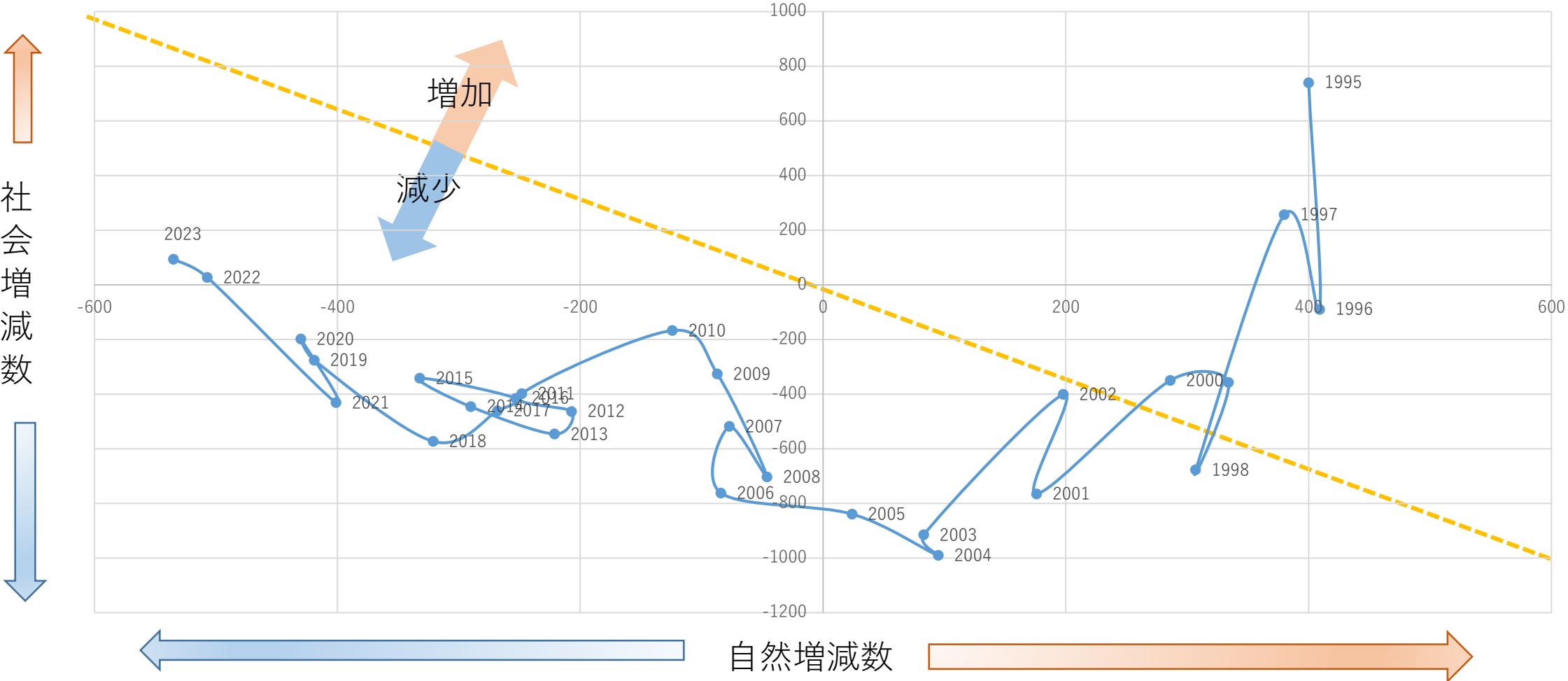
人口と人口変化率の推移

【出典】 国勢調査



※ 各年1月1日時点

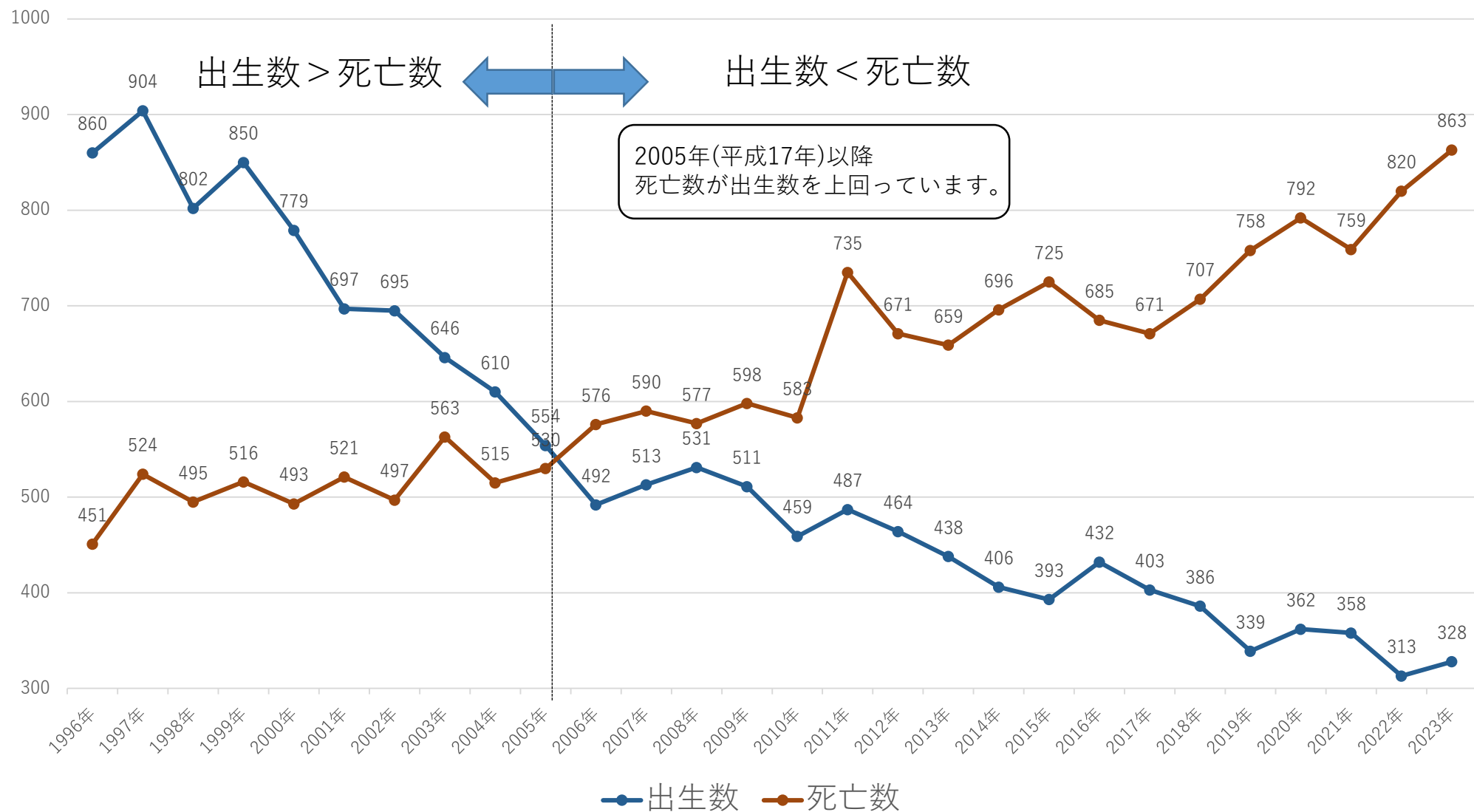
自然増減と社会増減の推移（散布図）



出生数・死亡数

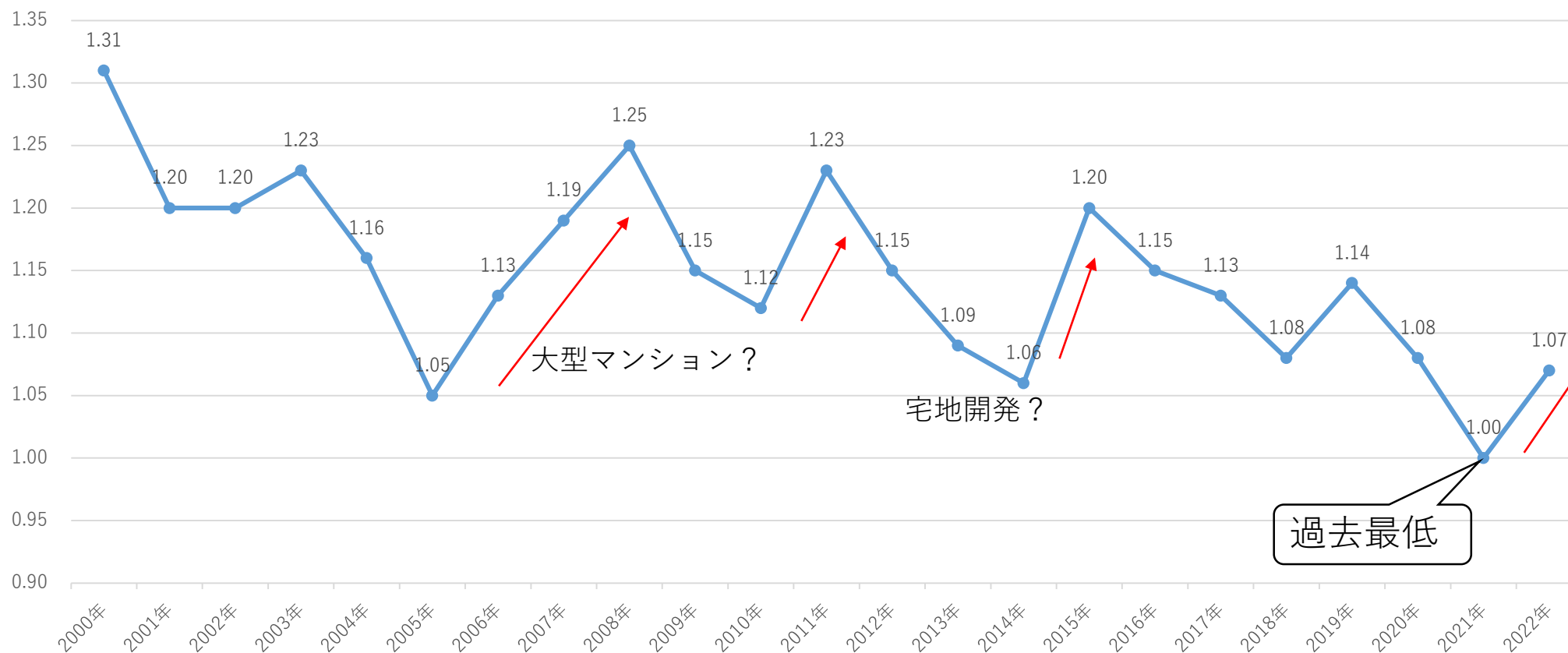
【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

※ 各年1月1日時点



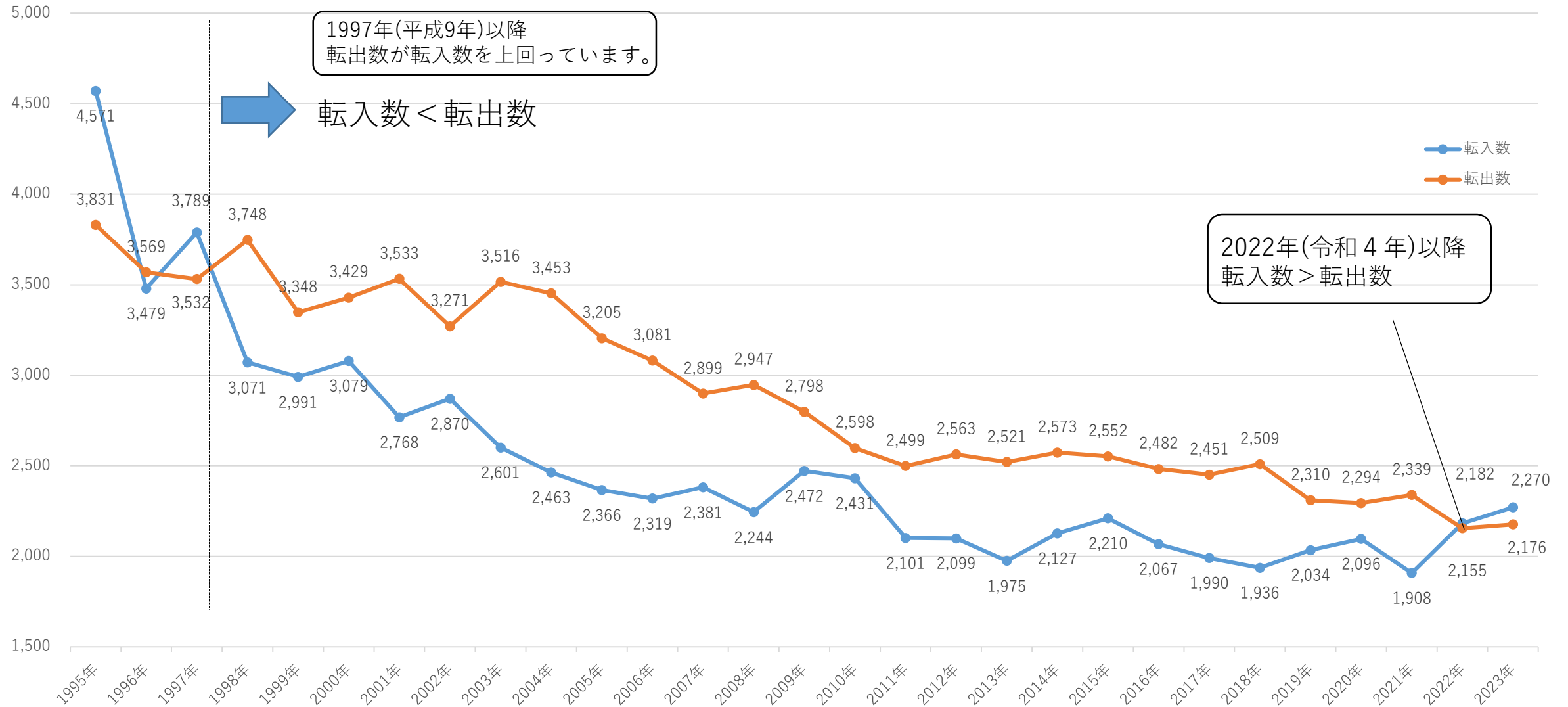
合計特殊出生率

人口動態調査による母親の5歳階級別出生数を住民基本台帳（10月1日付）による15～49歳の5歳階級別の女性人口比で除した値の合計



転入数・転出数

※ 各年1月1日時点



From-to分析（定住人口）

【出典】 地域経済分析システム（REASAS）2021年

転入者 内訳 〈上位5位〉

	転入元	転入者数	全体の割合
1	橿原市	314人	14.72%
2	大阪市	202人	9.47%
3	香芝市	182人	8.53%
4	奈良市	84人	3.94%
5	葛城市	80人	3.75%

転出者 内訳 〈上位5位〉

	転出先	転出者数	全体の割合
1	橿原市	212人	10.19%
2	大阪市	183人	8.80%
3	香芝市	144人	6.92%
4	葛城市	144人	6.92%
5	広陵町	106人	5.10%

転入超過数 内訳 〈上位5位〉

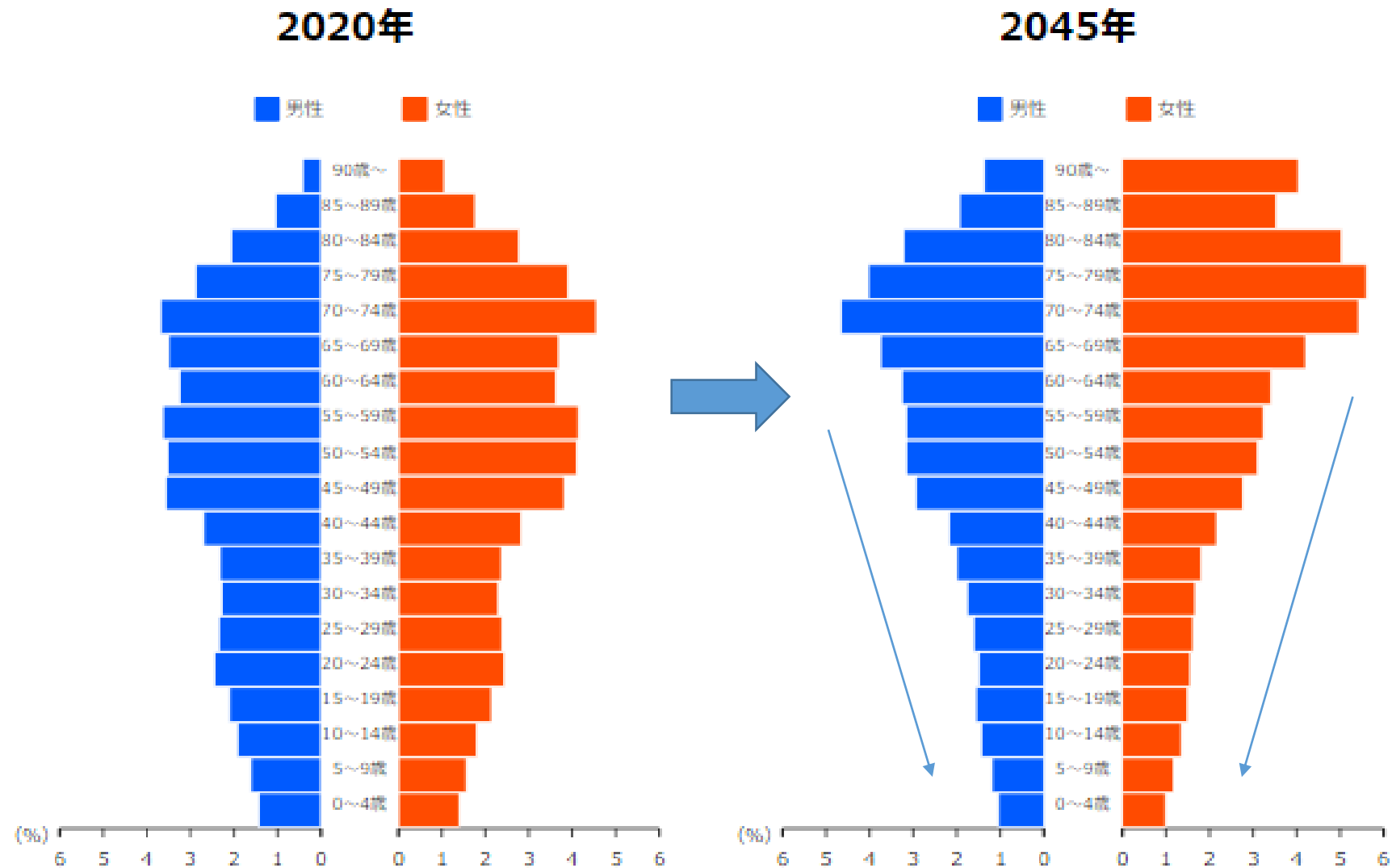
	転入元	転入者数-転出者数	全体の割合
1	橿原市	102人	40.32%
2	香芝市	38人	15.02%
3	五條市	20人	7.91%
4	桜井市	18人	7.11%
5	御所市	15人	5.93%

転出超過数 内訳 〈上位5位〉

	転出先	転入者数-転出者数	全体の割合
1	葛城市	64人	32.00%
2	広陵町	36人	18.00%
3	奈良市	20人	10.00%
4	大阪市北区	11人	5.50%
5	大和郡山市	10人	5.00%

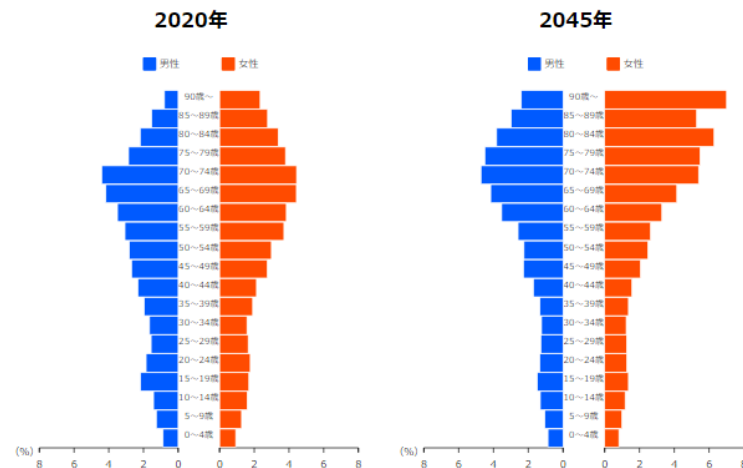
人口ピラミッド

【出典】 地域経済分析システム (REASAS)

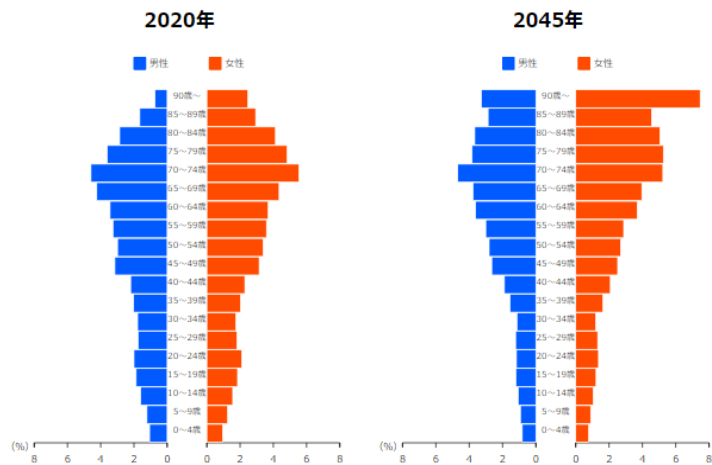


【参考】近隣市人口ピラミッド

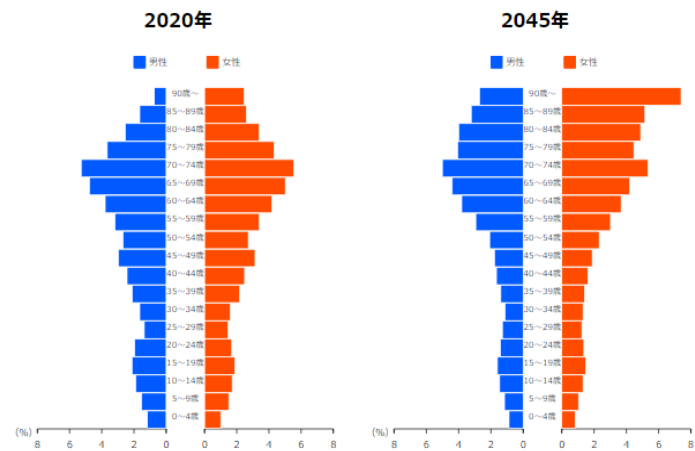
五條市



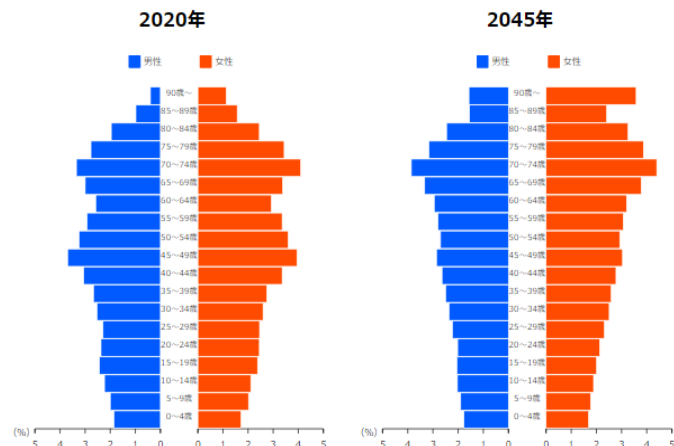
御所市



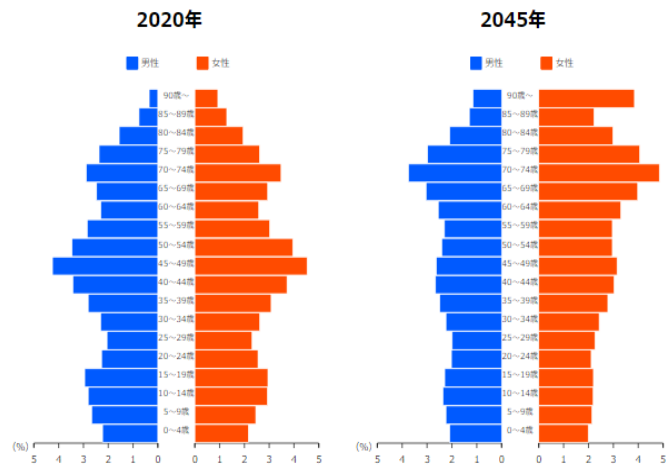
宇陀市



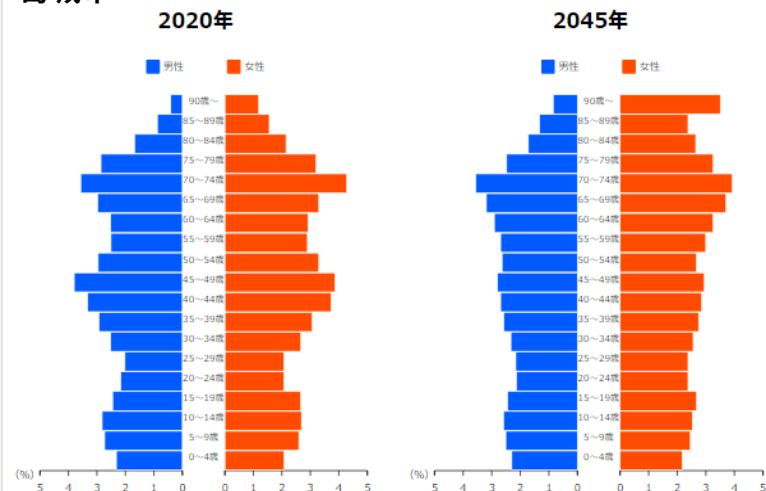
橿原市



香芝市



葛城市



○まとめ

- ・ 自然増減率が1995（平成7）年以降、過去最高となっている。
→人口減少・少子高齢化の影響が強く表れている。
- ・ 2年連続で、社会動態増減数が増加している。
- ・ 合計特殊出生率は2021（令和3）年には1.00と過去最低値となっていたが、2022（令和4）年には、1.07とやや回復傾向にある。
→大型マンションや、宅地開発があったエリアと人口増加エリアに相関があり、合計特殊出生率の上昇傾向から、前年度の転入の年齢層が子育て世代であったと推測される。